

# みなとしみず

国土交通省中部地方整備局  
清水港湾事務所  
御前崎事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所  
静岡市清水区日の出町7番2号  
TEL. 054-352-4146(代表)  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

## ～CONTENTS～

- 年頭のご挨拶 ○新興津波防壁ケーソン最終函据付完了(全46函) ○地域防災訓練に参加しました～地域の住民の安全・安心を守ります～
- 「みなとオアシスおおいがわ」が誕生～県内では沼津港に続いて2カ所目～ ○富士山と調和した港に興味深々！ ○港で働く「女性」にインタビュー！(第2回)
- シリーズ「エア・ガール 東京-下田-清水定期航路④」(全5回)

## 年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。

年初の「みなとしみず」発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年は、清水港新興津国際海上コンテナターミナルの利用拡大により、清水港におけるコンテナ取扱個数が増加に転じることとなりました。また、大型客船のセレブリティミレニアムが初入港したのをはじめ客船寄港数も倍増し、物流・観光面において、着実な実績の積み上げと更なる期待が高まる一年となりました。

本年も引き続き、我が国の力強い経済の再生に向け、物流・交流基盤の整備を通じて「産業の競争力強化」、「地域経済の活性化」に微力ながら努めて参ります。

また、大規模地震・津波対策やインフラの老朽化対策等の国民生活の安全・安心を支える港湾の基盤整備やソフト対策についても着実にその取組を進めて参ります。

更に、本年は、徳川家康公顕彰四百年の節目の年に当たります。家康公の取り組んだ清水湊づくりと地域開発に目を向け、情報発信することを通じて、地域の進める家康ブランド創造に貢献できればと考えております。

加えて以上に述べた取組みは、地域の皆様との信頼関係のもとで各方面のご協力を頂きながらより高い効果が得られるように進めて参りたいと考えております。

このため、職員一丸となって、より良い国土基盤づくり、地域づくりに全力で取り組んで参りますので、より一層のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



清水港湾事務所長 加賀谷 俊和

## ～港湾空港技術特別講演会 2014 開催のお知らせ～

開催日時：平成 27 年 1 月 23 日(金) 13:30～17:00 (受付 13:00～)  
会場：清水マリビル 6階 大会議室(静岡市清水区日の出町9-25)  
趣旨：本講演では、国土交通省国土技術政策総合研究所及び独立行政法人港湾空港技術研究所における地震・津波等に関する様々な最前線の研究成果を、地域の一般の方々に分かりやすく紹介します。

プログラム：<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisya/2014/12/1243.pdf>

申込先：E-mail：shimizu-kikaku@pa.cbr.mlit.go.jp 又は、FAX：054-353-3072

件名に「港湾空港技術特別講演会 in 中部 2014 聴講申込」として、  
①氏名 ②所属(住所または所属会社名) ③連絡先 ④CPD申請希望有無をご記入のうえ、  
1月16日(金)までにお申し込みください。なお、定員120名になり次第、締め切りとさせていただきます。

問い合わせ先：国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課  
TEL：054-352-4148

※個人情報、本公演以外の目的で使用しません。

聴講無料！

## 新興津防波堤ケーソン最終函据付完了(全 46 函)

平成 11 年度より整備が開始された新興津防波堤は、平成 26 年 11 月 30 日に最終函である 46 函目のケーソンの据付が完了しました。

ケーソン据付最終年度である今年度は、11月24日より30日に4函の据付を実施、風波浪の影響により1日の順延はありましたが、ほぼ順調に作業が進められました。

当日は、当局のケーソンヤードに仮置済みのケーソンを進水台車に載せ海中に降ろし、海上を曳航、新興津防波堤の先端に待機している作業船を用いて据付が行われました。

今回は、曳航時にケーソン上にアドバルーンを取付け、アドバルーン下に「ケーソン曳航中」と表示し、他船舶に注意を促し、安全な曳航作業に一役担うこととなりました。

今後、新興津防波堤は、上部コンクリート、消波ブロック等の整備を行い、平成 27 年度の完成に向け、安全に工事を実施、新興津岸壁の前面泊地の静穏度確保に役立つこととなります。



ケーソン曳航状況

## 地域防災訓練に参加しました～地域の住民の安全・安心を守ります～

静岡県では、毎年12月第1日曜日を「地域防災の日」としており、各自主防災組織（各自治会・町内会等）毎に防災訓練が行われています。

清水港湾事務所では、静岡市と「津波発生時における避難施設としての使用に関する覚書」を平成 25 年 11 月 29 日に締結し、当事務所所有の駒越北宿舎が津波避難ビルに指定されました。災害時には住民の方々の避難場所になります。

平成 26 年 12 月 7 日(日)午前9時に地震が発生したとの想定のもと、当宿舎を使用した津波避難訓練が実施され駒越北町自主防災会と当所職員の約 200 名が参加して津波発生時の避難経路、避難方法等の確認をしました。



《津波避難訓練の様子》

## 「みなとオアシスおおいがわ」が誕生～県内では沼津港に続いて2カ所目～

焼津市の大井川港が 11 月 7 日、中部地方整備局から「みなとオアシス」に認定されました。中部管内では 6 カ所目、静岡県内では沼津港に続いて 2 カ所目となります。

「みなとオアシス」は、にぎわいや交流を創出する「港」を国が認定し、広報活動を支援する制度で、大井川港で開催されている「踊夏祭(おどらっかさい)」、「大井川朝市」、「釣り大会」などの交流イベントや大井川港が地域の防災拠点として常時活用できる点が評価されました。今後は試験的に開催されている大井川港特産の桜エビのかき揚げやしらすを使った「丼市」の常設店化などによる賑わい創出が期待されています。

当日は、大井川港湾会館で開港 50 周年を祝う式典が開催され、その中で中部地方整備局の海野副局長から同港振興会会長の中野焼津市長に認定証と旗が授与されました。中野会長は「開港 50 周年の歴史ある大井川港の新たな一歩を踏み出すが、ぜひこのみなとオアシス制度を利用して賑わいのある交流拠点として発展したい」と認定の抱負を語られました。



《みなとオアシス認定証授与式での記念写真》

## 富士山と調和した清水港に興味深々！

平成 26 年 1 月 5 日(水) に国際協力機構(JICA) 18 名の研修員が清水港を視察されました。午前中は、日本平ホテル庭園から清水港全景を視察し、その景観のすばらしさに感激していました。その後 2 班に分かれ、清水港の概要説明と港湾業務艇「まさき」に乗船し、清水港の海上視察を行いました。

海上視察では、「清水港みなと色彩計画<sup>\*</sup>」のアドバイザーを務める東海大海洋学部東恵子教授から、同計画の狙いと、進捗状況を解説いただきました。

JICA 研修員からは、「なぜ清水港みなと色彩計画で色を揃えるのか。」「なぜ清水港みなと色彩計画は青と白に決まったのか」など活発な質問が出され、同計画に非常に興味を持っていた様子でした。また、感想として「清水港でこのような研修を企画してもらい、大変よかった。」と感謝をされました。



《港内視察後の写真撮影の様子》

※ 「清水港みなと色彩計画」とは、富士山をはじめとする美しい自然景観と調和した人工景観を創出する目的のもと、清水港のエリア毎にまとまりをもった色彩方針により官民が一体となって取り組んでいる計画です。



《清水港全景を視察(日本平ホテル)》



《清水港概要説明の様子》



《港内視察の様子》

## 港で働く「女性」にインタビュー！(第2回)

### ㈱東洋信号通信社 清水船舶情報センター 清水港グループ 遠藤さんにインタビュー！

第2回目は、㈱東洋信号通信社 清水船舶情報センター清水港グループの遠藤さんにインタビューをしました。

遠藤さんは、清水海上技術短期大学出身で、乗船実習を経て船に乗る楽しさを実感し、海に興味をもつようになり、港関連の仕事をしている父に勧められたことがきっかけで、今の仕事に就きました。

主に、船舶代理店から送られてくる FAX や電話をもとに、航行船舶の船長に無線で利用岸壁の情報を伝えるお仕事を担当しています。船長と会話の際には、英語で会話することもあるそうです。また会話の際には、顔が見えない声だけのやり取りなので、「感じの良い通信を心掛けている」そうです。

#### 海の仕事をしたい方へひとこと！

男性の仕事だと思われがちですが、「私にはできないと決めずに、女性でもできることは多いので、チャレンジしてほしい！」とおっしゃっていました。



## シリーズ「エア・ガール 東京—下田—清水定期航空路④（全5回）」

※このシリーズは県内で知る人が少ない「東京—下田—清水定期航空路」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載4回目です。

昭和6年3月5日、2次試験終了後の午後4時、本山英子さん、工藤雪江さん、和田正子さん、いずれも今月卒業を控えた19歳から20歳の女学生が「エア・ガール」として合格しました。

4月1日よりの定期便も、週3便（月、水、金）の3往復、下り東京発午前9時、清水到着11時40分、上り清水発午後1時、東京到着3時40分に決まり、史上初のエア・ガール搭乗フライトの準備が整いました。

当時、航空事業を管轄していた逓信省の大臣である小泉又次郎氏より、初試乗の申し出があり、3月29日に娘の芳江さんと共にエア・ガールのサービスを受ける最初の乗客になりました。このフライトには、他に門屋大臣秘書官、東京日日新聞岩崎記者が乗り、金丸飛行士が操縦し、エア・ガールはフェリス女学院卒業の本山英子さんが選ばれました。

フライト中の模様に関しては、同乗した岩崎記者の記事が翌日の新聞に記載されています。当日の東京鈴ヶ森海岸には小泉逓信大臣、令嬢芳江さん、エア・ガールの3人の初飛行に盛大な見送りがされたようです。10時半に滑走を始めた水上旅客機 AB-1 は、羽田空港の上空を旋回しつつ順調に上昇しましたが、途中から騒音がひどくなり、機内の会話は筆談になったようです。現在の飛行機と違い、客室の前には450馬力を発生するエンジンがあり、防音材、吸音材などは無いに等しい環境では、かなりの爆音であったと想像されます。ちなみに、この機体の操縦席は、客室の上部後方の開放型でした。その後、横浜上空からは、エア・ガールより豊富な航空知識を発揮して小泉大臣自らガイドを始めるなど、上機嫌だったようです。11時15分頃、エア・ガール本山さんより同乗の4人に温かい紅茶が振る舞われます。その後、芳江さんも手伝ってウイスキー、ビスケット、お茶などもサービスされました。伊豆半島を縦断し、正午三保に着水。「モダン天女と舞い降りる三保の松原だ。愉快愉快。」と大臣。「こんな平穩にして楽しい飛行機を恐れるというのは科学を軽蔑するものだ。各人はすべからず飛行機をのんでかからにゃいかん。」と演説をしたそうです。一行は清水市長、郵便局長などの歓迎を受け、午後1時に清水を離水し、沼津経由で東京に戻りました。

昭和6年4月1日東京—清水片道25円で運行が開始された定期便ですが、当日は天候不良などで乗客のキャンセルがあり、乗客2名になったため、エア・ガール3名全員が搭乗して清水港に降り立ちました。

華々しくデビューしたエア・ガールでしたが、就航1か月にも満たない4月29日、初回分の給料を受け取り全員退社してしまいます。理由は、飛行機の狭さと薄給という事で、実際支払われた給料は16円から17円だったようです。当時の教員の給料が50円の時代。140名余りの中から厳選され時代の最先端の職業を選んだ彼女達にとっては、予想外の待遇だったのでしょうか。目玉であるエア・ガールの不在は航空路の存続に関わる問題でしたので、待遇を改善（1回の飛行につき3円、地上勤務1円）し再募集したところ、再び300名以上の希望者が集まりました。

日本最初のエア・ガールについての資料をまとめさせて頂きました。4回の連載予定でしたが、書ききれない部分があり、次回補足の掲載をさせて頂くことになりました。



昭和6年3月29日 試験飛行前

山口博史（やまぐちひろふみ）昭和43年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。下田市取材中に「東京—下田—清水」定期航空路に関わった旅館に会い、10年以上各地で調査している。

### 海とみなとの相談窓口

全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと  
**0120-497-370**

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）  
☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること
- ・その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

### ■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課  
野村・西村 TEL054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

